

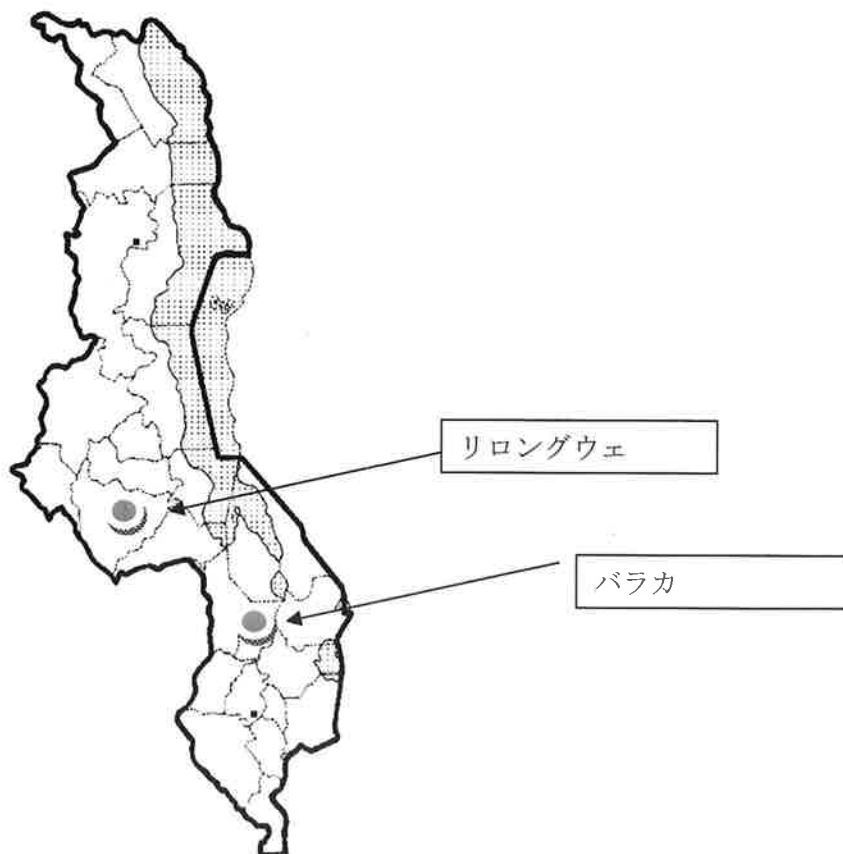
NPO エコライフはままつの皆様へ

このたびは、マラウイの音楽学校に鍵盤ハーモニカをご支援して頂き、誠にありがとうございました。2014年1月からマラウイ共和国で数学教員として活動している秋口と申します。2月の末に私の活動している任地に鍵盤ハーモニカが到着しました。

音楽学校の教員達や、生徒達も大喜びをしていました。任地や活動の紹介を含みながら写真とともにそのご報告をさせていただきます。

任地、配属校紹介

まずは、私の任地ですが、マラウイ共和国の首都リロングウェから約200km南東に行くとバラカと呼ばれる町にある、バラカ中高等学校（日本で言う中学3年生～高校3年生）で数学の教員として活動しています。バラカ中高等学校は政府系の学校で、生徒数は約600人で現在、私はform2(高校1年生)に対して数学を教えています。



マラウイの教育事情（数学において）

マラウイでは、数学の基礎と呼ばれている計算（九九、一ケタの四則演算 分数の四則演算、通分 etc）が中高等学校レベルでもできない生徒がたくさんいます。

その背景としては

- ・日本の小学校のように繰り返し繰り返しやることがない
- ・中高等学校から電卓が使用できることにより、簡単な計算も電卓を使用する
- ・ノートの裏に九九が記載されているため、覚えなくてもノートの裏を見ればわかる

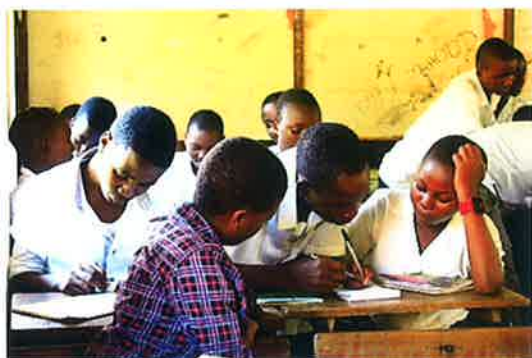
中高等学校では、シラバスに記載されているトピックが多いため小学校で習う数学の基礎（九九、一ケタの四則演算 分数の四則演算、通分 etc）に時間をかけることができません。

そこで、生徒と一緒に考えられるように通常の授業では、生徒中心の授業になるように心がけながら授業を展開しています。

生徒が数学は楽しいと思えるように。



赴任した当初はなかった生徒同士の教えあい活動も増えてきています。



アンディアモ音楽学校の現状

任地バラカの配属校の近隣にあるアンディアモ音楽学校では、約 70 人の生徒が音楽を習っています。

音楽学校と呼ばれていても壊れて音が鳴らないキーボードが 6 台ほどあるだけで、子供達は、その音の出ないキーボードで弾き方だけを教えられて練習しています。私自身、音楽をやっていたこともあり、音がでないキーボードを弾いても全然楽しくないし、なかなか上達しません。

音楽は音があるから楽しいのを子供達に知ってもらいたい。そして、音楽を通して、規律などを知ってもらいたいと思うようになり、「世界の笑顔のために」プログラムを通じて鍵盤ハーモニカをリクエストしました。



鍵盤ハーモニカ贈呈に際して

2/26 の木曜日に音楽学校に届いた鍵盤ハーモニカを持っていきました。

事前に、10 時に行くことを伝えて行くと、教員達がすごく大喜びになり、「関係者を呼んで大きなセレモニーをする必要がある。15 時に再度来てくれないか？」ということになりました。

15時に再度訪問すると、音楽学校に来ている生徒約20名と教員2名、アンディアモの教育施設の広報の方も来てくれました。



子供達も音が出る鍵盤ハーモニカを見て、演奏して大喜び。そして、教員陣も目で確認しかできなかった弾き方を目と耳でメロディーを通して教えられることで喜んでくれていました。



これからは、この鍵盤ハーモニカを使い生徒と路上公演をして、音楽の楽しさを村の人達に伝えることができる。と大はしゃぎの教員達



最後には、鍵盤ハーモニカをどのように管理していくのかの話し合いをしました。

最後に

マラウイの子供たちは音楽が鳴り出すと、踊り出す特徴があります。
そこで、音楽と数学の九九をコラボして、マラウイ版の掛け算の歌を音楽学校とバラカ中
高等学校の生徒と作成し、踊りながら九九を覚えるような活動をしていきます。
作成ができましたら、映像とともに再度ご連絡させていただきます。
マラウイの音楽の発展にご協力頂き大変ありがとうございました。

青年海外協力隊
平成 25 年 3 次隊派遣
数学教育（マラウイ）
秋口 達哉

秋口達哉